

報道関係者様各位

Quer Swinger Vem Pra Cá
(ケール スウィングール ヴェン プラ カ)
代表 宮澤摩周



2018年から3年連続!!

ケール スウィングール ヴェン プラ カ

日本のサンバチーム「Quer Swinger Vem Pra Cá」

リオのカーニバル公式プログラムに出場決定

～リオの名音楽家から受け継いだサンバを演奏～



メストリ・トランビッキがサンバをする子供たちを空から見守る様子を描いたメインビジュアル

東京を拠点に活動しているサンバチーム Quer Swinger Vem Pra Cá (ケール スウィングール ヴェン プラ カ)は、2020年2月にブラジル・リオデジャネイロ市内で行われるカーニバル公式プログラムとして(3年連続3回目)、現地時間2月23日(日)午前11時(予定)より同市内ヴィラ・イザベル地区でサンバの演奏を行います。

日本人のチームが公式プログラムとしてカーニバルへ直接参加することは当団体以外に例がなく、リオ市当局から3年連続での参加が認められたことは、国際文化交流の観点からも非常に意義があります。

2020年の演奏テーマは、当団体の名付け親であり、リオのサンバシーンを牽引しながら数多くのミュージシャンを育てあげた演奏家、Mestre Trambique(メストリ・トランビッキ/2016年没)への哀悼の意と、彼の生前の功績に敬意を示すものです。彼を慕う多くのミュージシャンや、リオのカーニバルトップリーグに出場する演奏家らが本番当日の演奏への参加を表明してくれています。

なお、本演奏のために、日本より約20名の日本人メンバーが渡伯遠征するとともに、滞在期間中に現地のブラジル人メンバーと新曲のレコーディングを行います。

■出演概要

日時：2020年2月23日(日)

9:00～14:00(演奏開始は11時頃の予定) ※現地時間

場所：ブラジル リオデジャネイロ市 ヴィラ・イザベル地区

「Praça Barão de Drumond」(バラオン・ヂ・ドゥルモンド広場)

編成：歌手、弦楽器奏者、打楽器隊(40～50名程度予定)による演奏

当団体渡伯メンバーとリオ支部である「Quer Swinger Vem Pra Cá Rio」による共演

※リオ支部はリオのカーニバルのトップリーグに出場するサンバチーム「G.R.E.S.

Unidos de Vila Isabel(ヴィラ・イザベル)、「G.R.E.S. Estação Primeira de Mangueira(マンゲイラ)」の現役メンバーや、リオを中心とした音楽シーンで活躍するミュージシャンらを含む、メストリ・トランビッキに所縁のあるメンバーで構成。

演目：メストリ・トランビッキ作詞作曲を含む当団体オリジナル曲3曲と、その他十数曲

協賛：株式会社アルファインテル

その他：当団体オリジナルシャツの販売を会場内テントにて実施予定(無くなり次第終了)

取材のお問合せ 広報担当：大木(e-mail：marienplatz12.96050@gmail.com / Tel：080-5073-1670)

■過去の出場の様子

(1) 2019年

2019年3月3日(日)、2年連続でリオ市内のカーニバル公式プログラムへ出場。直前の会場変更が発生したものの、当日は約200名の観客が集まり、3度の打楽器のみの演奏の後、約1時間、約20曲の楽曲演奏で会場を盛り上げた。日本から遠征した15名の他、現地のリオ支部のメンバーと地元の強豪サンバチーム Vila Isabel (ヴィラ・イザベル) の現役打楽器隊メンバーも参加し、総勢50~60名での演奏となった。

なお、滞在期間中には Vila Isabel (ヴィラ・イザベル) の専用練習場も視察訪問し、チームメンバーらとの親交を深めた。



本番の演奏の様子



オリジナルチームシャツ等の販売テント

Vila Isabel(ヴィラ・イザベル)の専用練習場視察での交流の様子

(2) 2018年

2018年2月11日(日)、リオのカーニバル公式プログラムに日本チームとして初めて出場。当日は集まったおよそ1,000人の観客からも多くの歓声を浴びながら約2時間サンバの楽曲を演奏した。リオのカーニバルではお馴染みのチームオリジナルシャツの販売も行い、当団体のシャツを着用した観客も多く参加した。



当日の演奏の様子



観客の反応も上々



リオ支部「Quer Swingar Vem Pra Cá Rio」のメンバーと



オリジナルシャツを販売



演奏後は観客・共演メンバーと

■パレードのテーマと本プロジェクトの経緯について

メストリ・トランビッキはサンバの作曲家、パーカッショニスト。リオデジャネイロのヴィラ・イザベル地区にある丘に住み、後進の育成に長年貢献し多くの演奏家を育てた。リオだけでなくブラジル国内の多くのミュージシャンから尊敬を集める存在だったが、2016年2月に惜しまれながら70年の生涯を終えた。

当団体代表の宮澤は2005年からメストリ・トランビッキに師事。師の勧めでリオのサンバチーム「G.R.E.S. Unidos de Vila Isabel(ヴィラ・イザベル)」に打楽器隊の一員として所属、パレードに出場しながらサンバを学び、日本とブラジルを往復する日々を過ごした。その経験を生かし、2012年、師の教えを日本で体現することを目標に当団体を結成し、メストリ・トランビッキ本人より直々にチーム名を授かる。彼との出会いから10年目となる2015年には師を日本へ招へいし、地球の反対側でサンバを通じての国際文化交流を実現した。

メストリの逝去後、彼を慕う愛弟子や家族、音楽仲間から「日本のメンバーとリオでパレードを実現しよう」、「Quer Swingar Vem Pra Cáの名を掲げて彼への思いを多くの人に伝えたい」という声が上がったこと、代表の宮澤が「日本からメンバーを呼んで一緒にパレードしよう」と師の生前に約束をしていたことも重なり、今回のプロジェクトが発足。初回となる2018年において、多くの現地ブラジル人より称賛の声を受け、続く2019年は現地滞在中に地元のサンバチームである「G.R.E.S. Unidos de Vila Isabel(ヴィラ・イザベル)」のメンバーとも親交を深めた。

そして2020年、晴れて3年連続でのカーニバル出場を果たす。

■リオ市内のカーニバルについて

カーニバルの期間中はリオ市内各地で、ブロッコ カルナヴァレスコと呼ばれる団体のストリートパレードが連日繰り広げられる。毎年およそ500もの団体が公式参加するこのストリートカーニバルの主役はその場にいる全員。誰もが思い思いに仮装して楽しみ、パフォーマーとの距離感が近いことが特徴。



仮装してパレードに参加するリオ市民



◆Quer Swingar Vem Pra Cá(ケール スウィンガール ヴェン プラ カ)について

世界的に有名な「リオのカーニバル」のトップリーグに出場する老舗チーム G.R.E.S. Unidos de Vila Isabel の打楽器隊メンバー、宮澤摩周により 2012 年東京で結成されたサンバ団体。ポルトガル語で「スウィングしたけりゃ、こっちにおいで」という意味のチーム名は、宮澤のサンバの師であり、リオデジャネイロのサンバの歴史を 50 余年に渡り築き上げてきた、メストリ・トランビッキから授かった。

「リオの音が響く！」と日本のサンバファンの間で話題になり、さらに SNS を通じて本場リオのサンビスタ(サンバ演奏家)からも称賛を受けている。2017 年ブラジリアン・インターナショナルプレスアワードの日本人デュオ/トリオ/グループ部門にノミネート。

【主な出演実績】

ブラジルフェスティバル/代々木公園(2016、2017、2018、2019)

J-WAVE<NIPPON EXPRESS SAÚDE! SAUDADE...>CARNAVAL(2015、2016、2019、2020)

岐阜県美濃市制施行 60 周年記念パレード「夢かなうまち★うだつカーニバル」(2014)

大田区スポーツ健康都市宣言記念事業 第 5 回おおたスポーツ健康フェスタ(2018)

池袋サンバカーニバル in サンシャイン 60 通り(2013、2014、2015、2016)

Pedro Miranda with Grupo Cadência Japan Tour 2018(2018)

テレビ朝日「題名のない音楽会」(2019) 他



チームの集合写真



メストリ・トランビッキ(最前列左から 4 番目)をブラジルより招聘しての練習

Blog <http://blog.livedoor.jp/rioswingueira/> Facebook ページ <https://ja-jp.facebook.com/swingueiratoquio/>
Instagram <https://www.instagram.com/querswinger/?hl=ja>

◆宮澤摩周(Mashu Miyazawa)について

打楽器奏者。2001 年パーカッションの買い付けで初めてブラジル(サンパウロ)を訪問。現地音楽の豊かさに魅了されて帰国。同年、東京在住(当時)のブラジル人ミュージシャン、ダミアオン・ゴメス・チ・ソウザの声掛けでサンバの演奏を始め、ドラムからブラジリアン・パーカッションの世界へ入る。2005 年ポルトガル語とサンバの基礎の習得のためリオデジャネイロへ長期留学。歌手ペドロ・ミランダ(グルーポ・セメンチ(当時))の紹介で、メストリ・トランビッキ(グルーポ・セメンチ)のミュージシャン向けパーカッションワークショップへ参加、そのまま門下となる。程なくして師の紹介でリオの老舗サンバチーム「G.R.E.S. Unidos de Vila Isabel(ヴィラ・イザベル)」のバテリア(打楽器隊)に入会。以来、正規メンバーとしてリオと東京を半年ずつ行き来する生活を送る。この間、ブラジルの全国誌 Veja(ヴェージャ)のカーニバル特集号で「Tem japonês na bateria(バテリアの中に日本人がいる)」というタイトルで大きく掲載され、2013 年には大手新聞 O Globo(グローボ)の特集号に「Bloco Cordão do Boitató(ブロコ・コルダオン・ド・ボイタタ)」のメンバーとして写真記事が掲載されるなど、テレビ、ラジオをはじめとした現地メディアでリオと東京での活動が度々紹介されている。2013 年カーニバルでは Vila Isabel の優勝に貢献。2015 年、2017 年、2019 年も同チームの打楽器隊員としてカーニバルに出場。

ペドロ・ミランダ、テレザ・クリスチーナ、アルフレド・デル・ペーニョ、故メストリ・トランビッキ、マルコス・エスグレバ、故オヴィヂオ・ブリト、プレチーニョ・ダ・セヒーニャなど、主にリオの若手サンバ歌手、ベテラン演奏家との親交がある。

【参考資料】

2012年、Vila Isabelの打楽器隊のアンサンブルを体現するブロック（団体）「Quer Swingar Vem Pra Cá（ケール・スウィングール・ヴェン・プラ・カ）」を創立。エスコラ・ヂ・サンバ（リオのカーニバルに出場する大規模サンバチーム）文化の理解と振興に努めている。

2018年2月11日、リオのストリートカーニバルの公式プログラムとして、ヴィラ・イザベル地区のパラオン・ヂ・ドゥルモンド広場にてブラジル＝日本の合同チーム、「Quer Swingar Vem Pra Cá」で演奏した。リオのカーニバルの長年の歴史を通じ、日本人の団体が公式に出演したのは初めての快挙。その様子は日本のメディアでも紹介された。2018年7月、リーダーバンドである Grupo Cadência(グルーポ・カデンシア)でリオの若手サンバ歌手の筆頭格、Pedro Miranda(ペドロ・ミランダ)を迎えジャパンツアーを行い、各公演ソールドアウトの成功を収める。2019年にはブラジルサンバ界のレジェンドである Nelson Sargento(ネルソン・サルジェント)やリオの古参名門チーム「G.R.E.S.Portela(ポルテラ)」の元代表 Serginho Procópio(セルジーニョ・プロコピオ)、これまで250以上のサンバの名曲を作曲したシンガーソングライター Toninho Geraes(トニーニョ・ジェライス)らの来日公演にてバックバンドを務めるなど、ブラジルと日本の音楽交流の懸け橋として活動する。グルーポ・カデンシアでの活動の他、東京を中心に打楽器隊の演奏指導、パndeイロをはじめサンバ・パーカッションのワークショップを行っている。



Unidos de Vila Isabel の仲間と(左から 2 番目)

